

(2) カマキリ目・バッタ目

選定・評価方法の概要

カマキリ目とバッタ目は、共に直翅系昆虫に属する分類群であることにより、ここでまとめて扱う。

東京都本土部のカマキリ目・バッタ目は古くから記録されている。例えば東京府（1938）には武蔵野地域の目録が掲載されており、平山（1933・1937）の図版にも多くの東京産の標本が図示されている。また、東京大学総合研究博物館には、加藤正世博士が収集した戦前から戦後間もない時代の東京産の標本が多く收藏されている。これらの中には全国的にも生息地が限られているアカハネバッタやヤマトマダラバッタのような種も含まれており、往時の種構成や生息環境をうかがい知ることができる。しかし、他の分類群同様、高度成長期以降の大規模開発や生活様式の変化に伴い、クツワムシやクルマバッタなど、過去には各地で記録されていた普通種が消えていく一方、アオマツムシやヒメクダマキモドキのように、分布域、個体数共に増加し、勢力を増している外来種や暖地性の種もみられる。標本などの根拠が示されている近年の記録としては、皇居（山崎，2000）や東京港野鳥公園（寺山ほか，2015）、葛西臨海公園（渡辺ほか，2018）、森林総合研究所多摩森林科学園（松本ほか，2019）といった特定の場所、もしくは八王子市（八王子市，2016）のように限られた地域についてのまとまった報告は見られるが、広域を対象としたものは、前回（本土部レッドリスト2010）の改定時と同様、バッタ目では和田（1995・2001）による報文のみであり、カマキリ目では見出せなかった。このように評価に資する基礎的なデータが不足しているのが現状である。そのため、今回の評価はすべて定性的要件によって行い、入手できた文献資料のほか、聞き取りなどの情報、隣接県での生息状況なども参考として、一部、現地調査も実施した。絶滅危惧Ⅰ類のランクについては、絶滅危惧ⅠA類（CR）と絶滅危惧ⅠB類（EN）を区分した。過去の記録はさかのぼれるものについては戦前のものも含め採用した。

検討対象種として評価を行った種はカマキリ目で3種、バッタ目は本土部レッドリスト2010に掲載されている種を中心とした41種である。評価にあたっては、多くの方から未発表記録や生息状況などについて多数提供していただいた。

選定・評価結果の概要

評価の結果、カマキリ目2種、バッタ目23種が本レッドリストの掲載種に選定された。評価にあたっては、過去から現在にいたる減少度合いを基本とし、生息環境の脆弱性、分布範囲などの情報も加味してランクを決定した。絶滅危惧に該当するかどうかで判定したため、希少性が高くとも生息環境・状況が安定的であると判断された種や増加傾向にある種、移入が疑われる種についてはランク外とした。例えば、スズムシやヒガシキリギリスなどは、飼育個体の逸出や意図的・非意図的な移入の可能性があるため評価の対象から外した。前回選定されたヒロバネカンタンのように植栽樹木の移動による非意図的な移入の可能性が考えられ、湾岸部や河川敷に生息地が多く個体数も多い種も対象外とした。

今回、絶滅危惧種のCR、EN、VUとなった種についてみると、生息地が河川敷に限られている種や河川に依存している種が多い。特にランクが高いのはエゾエンマコオロギやカワラバッタのように自然に成立した礫河原に生息する種である。礫河原は出水によるかく乱の影響を受けるが、生息適地が少ないため、生息地の消失を十分に補償できない状況にあると思われる。同様のことが河川のヨシ原に生息するイズササキリやカスミササキリのような種についても言える。



カワラバッタの生息する礫河原（青梅市）

一方、草地性の種は、高度成長期以前に比べると生息地は明らかに減っているが、大河川の河川敷草地を中心に一部で安定して生息していることから、ランクの高い種は少なかった。また、樹林性の種は生息環境・状況が比較的安定な傾向にあり、ランクの高い種は少なかった。

なお、2021年に報告されたウスモンウミコオロギ（高橋,2021）については、RL改定後であったことから今回は評価されていないが、岩礁という特殊な環境に生息する種であり、近県の状況からも絶滅危惧に該当する可能性が高いため、十分な配慮が求められる。

（伊藤元）

引用文献

八王子市, 2016. 新八王子市史自然調査報告書, 八王子市動植物目録. 562 pp.

平山修次郎, 1933. 原色千種昆虫図譜. 186pp.+104PL. 平山修二郎, 1937. 続原色千種昆虫図譜. 194pp.+88PL.

松本和馬・佐藤理絵・井上大成・大谷英児, 2019. 森林総合研究所多摩森林科学園の直翅類. 森林総合研究所研究報告, 18 (2) : 219-230.

高橋文昭, 2021. 東京都本土部から確認されたウスモンウミコオロギ. 月刊むし, (608) : 55.

寺山守・岸本太郎・高桑正敏・酒井香・岸本圭子, 2015. 東京港野鳥公園の昆虫（甲虫目、ハチ目、チョウ目以外）. 神奈川虫報, (186) : 47-56.

東京府, 1938. 武蔵野昆虫誌. 194+28pp.

和田一郎, 1995. 東京の直翅目. ぱったりぎす, (103) : 46-65.

和田一郎, 2001. 東京 23 区内の直翅類. 寄せ蛾記, (103) : 40-49.

渡辺康生・笹井剛博, 2018. 都立葛西臨海公園の生息昆虫たち. うすばしろ, (53) : 1-47.

山崎柄根, 2000. 皇居で見られた直翅系昆虫. 国立科学博物館専報, (36) : 19-27.

写真提供者

伊藤元